

紙づくりの本業を通じた 「竹紙」「里山物語」の取り組み

活動場所

- ・位置……………日本全国
- ・フィールドタイプ……森林、里山



「竹紙」は日本の竹を製紙原料とすることで、竹を持続的かつ大量に使い、竹林整備に役立ちます

活動の目的

書籍、ノート、雑誌、新聞紙、包装紙、米袋、紙コップなどのあらゆる原紙を取り扱う総合製紙メーカーの中越パルプ工業では、環境に配慮したFSC認証紙やPEFC認証紙などに留まらず、日本の竹100%でできた「竹紙（たけがみ）」や、寄付金付間伐材活用用紙「里山物語」という独自製品を、紙づくりという本業に持続的に組み込み、日本の森林や里山、生物多様性保全を図り、社会的課題に挑戦しています。

活動の内容

「竹紙」は、竹林整備で処分困った竹を活用できるよう1998年から取り組み、今では年間2万トンの国産竹を紙の原料としています。本来、製紙原料に不向きな竹を、竹林面積日本一の鹿児島県にある当社川内工場で、地元地域の問題解決を目指して試行錯誤してきました。全国に広がる放置竹林問題の解決を促しながら、竹の買取により過疎地で年間数億円の経済を作り出しています。

「里山物語」は、①間伐材をクレジット方式で最大限活用することによる森林保全、②販売価格の寄付金で、新たな価値や用途で里山を活用する団体を支援し、持続的な里山保全を図るという大きな仕組みの用紙です。現在、国内で6件の支援先が生まれています。これまでの印刷用紙を「里山物語」と指定するだけで、これらの活動を一緒に支援することができます。



「里山物語」は100%間伐材の紙と同じ効果があり、森林保全に役立ちます。

今後の展望

本業を通じた活動だからこそ、企業収益に左右されず、紙を生産し続ける限り続く、持続可能な取り組みです。今後、より多くの企業が真のソーシャルグッドを生み出し、それが多くの人に評価される社会を期待します。



「里山物語」の寄付金が、里山の団体を支援し、里山保全に役立ちます。

一言コメント

例えば「竹紙」は、本来なら紙の原料として不向きな竹を、一人の担当者が自分の職域の中でできることを取り組みはじめた結果です。世の中にある多くの社会的課題を、自分事として積極的に取り込むことで、世の中が少し前進します。必要不可欠な生物多様性保全も、他人事にせず、最初の一步は誰でも踏み出せるはずで。

実施体制

構成員：「里山物語」の取り組みは、里山保全・再生団体の中間支援を行うNPO法人「里山保全再生ネットワーク」と協業して、寄付金の支援先となる団体を共に選定しています。

事務局：中越パルプ工業株式会社 営業企画部

連絡先：〒104-8124 東京都中央区銀座2-10-6
TEL 03-3544-1508
E-mail honsha-eigyokikaku@chuetsu-pulp.co.jp
http://www.chuetsu-pulp.co.jp/